

今週
の
みこ
とば

「天の父の御心」

(マタイの福音書 18 章 10 節～14 節)

「このように、この小さい者たちのひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこころではありません」(18:14)

仲森文穂

今日 の メ ッ セ ー ジ 要 旨

○7 節に「つまずきを与えるこの世はわざわいだ。つまずきが起こるのは避けられないが、つまずきをもたらす者はわざわいだ」とあります。「つまずき」はギリシャ語のスカンダロン、英語のスキャンダルの語源です。元来は「わな」の意味ですが、ここでは人をつまづかせるという程の意味です。牧師になって言葉の重さを知りました。小さな軽い言葉でも人はつまずきます。牧師が風邪をひいたことにつまづいたという話もありますが、それは論外として、少々のことではつまづかないぞという気概も必要です。たとえ言葉や行動の上で過ちがあったとしても、お互いに赦し合うことをイエス様も望んでおられます。

○18 章の初めからイエス様は、天国で偉い人とは、第1に「子供のように自分を低くする人」、第2に「小さな者をつまづかせない人」と話され、そして第3に10 節以下で「小さな一人を大切にする人」と教え、迷い出た羊の話をされました。そして「このように、この小さい者たちのひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこころではありません」と締めくくられました。

迷い出た1 匹を探すために99 匹を山に残しておくなんてナンセンスという意見もありますが、私たちが羊飼いだったら、やはりこの迷い出た1 匹を探しに行くのではないのでしょうか。なぜなら羊はいったん迷い出してしまうと、犬や猫のような帰巢本能がなく、自力で戻ってこれないのです。そしてさ迷い歩くうちに、獣に襲われて命を失ってしまうからです。

○たとえ話では100 匹の羊の内の1 匹が迷い出た、とあります。100 匹もいれば1 匹への愛が100 分の1 になるというのは計算上のこと。実際の愛はそんなものではありません。ヨハネ10：3に「羊飼いは自分の羊をその名で呼んで連れ出す」とあるように、羊飼いは羊の顔を覚え、それぞれを名前呼びます。またヨハネ10：11には「わたしは良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てる」とあります。良い羊飼いが命をかけて羊を守るように、イエス様も神様の救いの書に私たちの名を記すために、ご自分の命を捨てられたのです。パスカルはそれを感謝し、「人ひとりを救うために、イエス・キリストにある神のすべての愛が必要だった」と、記しています。イエス様にとって、私たち一人一人はそれほど大切な存在なのです。

○ですから、私たちもお互いにケアをし合って歩みたいですね。お互いの尊厳を重んじ、心を配りつつ主に在る交わりを深めつつ、歩みたいです。でも何らかの理由で教会から足が遠のいた人に対しては、ケアしようとしても断られることがあるかも知れません。でも何もできなくても、祈りに覚えることはできますね。

イエス様がいつも私たちを覚えていてくださるように、私たちがその人たちを祈りに覚えていれば、交わりの糸は切れません。そして、いつでも帰ってこれるように、教会の門を、そして私たちの心を大きく開いていきたいですね。お互いに少々のことではつまづいたり、群れを離れたたりすることのないよう、神様、私たちを導いてください、と祈っていきましょう。そんな風に祈り合う教会は、いかなる困難も乗り越え、豊かに成長していくことができるのであります。